



美濃陶芸文化の  
発信

とうしん美濃陶芸美術館は、東濃信用金庫が、地域の人材育成と美濃陶芸文化の発信を目的に建設した「とうしん学びの丘“エール”」の一施設として、平成27年5月7日に開館いたしました。

美濃焼はおよそ1300年もの長い歴史を持ち、16世紀後半からの桃山陶では黄瀬戸・瀬戸黒・志野・織部といった技術を生み出しました。現在も陶磁器出荷額全国一を誇るとともに、国の重要無形文化財保持者（いわゆる「人間国宝」）を多数輩出しており、まさに美濃焼は日本を代表するやきものといえます。

当美術館は、東濃信用金庫が昭和61年度から行っている美濃陶芸作品永年保存事業で購入した作品をはじめ、東濃信用金庫が所蔵するコレクションなど、現代美濃陶芸の作品を広く皆さまにご覧いただくことを目的としています。

自生の大王松を囲むように建設された円形の建物は、通路両側に大小47の展示ブース、中庭に石灯籠を配しました。和の趣を味わいながら、ゆっくりと美濃陶芸の名品をご鑑賞ください。



【電車でのアクセス】

名古屋駅→JR中央線多治見駅下車（快速35分）→タクシー約15分  
または東鉄バス（北口）小名田線「虎渓山」下車（徒歩5分）

【お車でのアクセス】 駐車場：無料（150台）  
多治見ICから約10分 「住吉町5」交差点より北へ約1.5km

【開館時間】 10:00～17:00  
【休館日】 月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）、12/30～1/3

〒507-0014 多治見市虎渓山町4丁目13番地1  
とうしん学びの丘“エール”内  
TEL 0572-22-1155 FAX 0572-22-1197

展覧会スケジュール

2017年4月—2018年3月



企画展

2017年1月11日(水)～4月30日(日)  
—明治の陶磁器— 多治見西浦焼

協力:多治見西浦フォーラム

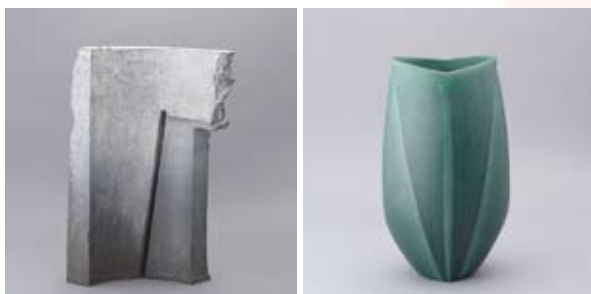


明治時代、土岐郡多治見町(現多治見市)において3代から5代西浦圓治のもとで制作された名品西浦焼を紹介いたします。上絵・染付・釉下彩など多彩な技法とともに発展した多治見西浦焼の展示をお楽しみください。

左—釉下彩鶴画皿 右—上絵花鳥画花瓶

2017年5月2日(火)～9月3日(日)  
美濃陶芸展 大賞作品展

共催:中日新聞社 協力:公益社団法人 美濃陶芸協会



近年の美濃陶芸展 大賞受賞作品から18点をご紹介します。第42回 黒岩達大、第41回 阪口浩史、第40回 曾根洋司など、独自の世界を表現した作品の数々を展示いたします。

左—曾根洋司「雨アガル川」 右—黒岩達大「緑釉花器」

2017年9月5日(火)～2018年1月8日(月・祝)  
MINO 茶碗 2017

「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」協賛事業



セラミックパークMINOで開催される「国際陶磁器フェスティバル美濃'17」の協賛事業として、当館では、美濃陶芸作家による茶碗展を開催いたします。美濃で活躍する若手作家から人間国宝の作家まで、1人1点づつ茶碗を展示し、「MINO 茶碗 2017」をご紹介します。

左—鈴木徹「緑釉茶碗」 右—若尾経「青瓷茶盃」

2018年1月10日(水)～4月8日(日)  
美濃陶芸この1年 —2017—



とうしん美濃陶芸美術館では、「美濃陶芸この1年」と題して、美濃陶芸作家の中から、毎年数名をご紹介します。2017年は、女性陶芸作家5名です。個性豊かなそれぞれの作家の世界をぜひご覧ください。

左—林友加「志野茶碗」 右—大道宏美「罎」

所蔵品展—常設展示—

美濃茶碗展

人間国宝 荒川豊蔵・鈴木藏・加藤孝造など当館が所蔵する美濃陶芸作家の茶碗の中から28点展示しております。また、第30回(平成28年度)美濃陶芸作品永年保存事業選定作品も紹介し、年間を通して美濃陶芸作家の作品がご覧いただけます。



荒川豊蔵「瀬戸黒茶碗」



鈴木藏「志埜茶碗」



加藤卓男「ベルシャ三彩胡矩文茶盃」



加藤孝造「瀬戸黒茶盃」

